

曲物生産者ごとの道具や技法を調査し、技術交流を図る

—業界の発展と自身の起業のために—

森と木のクリエイター科 木工専攻 清水 貴康

1. 背景と目的

私は、職人の後継者不足問題の一助になれないかと考え、本校に入学。その中で、需要が多いにも関わらず、生産者の減少している曲物業界に着目し、自ら生産者として起業することを決めた。

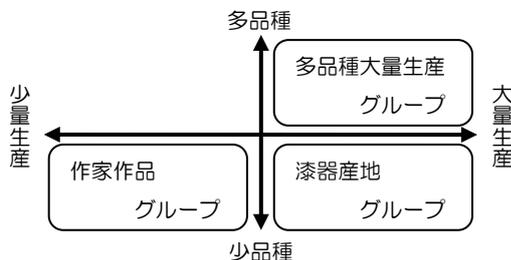
調査すると、同じ曲物を生産しているにも関わらず、各生産者が様々な道具や技法を採用していることが分かった。そして、横のつながりが少ない今、生産者同士の情報共有を求める声も少ない。

そこで、私は各生産者の道具や技法を調査し、その結果を発表する場を設け、各生産者との技術交流を行えないかと考えた。

2. 研究対象と流れ

インターンシップで訪問した早川曲物（岐阜県中津川市）を含め、全国 14 の工房を調査した。

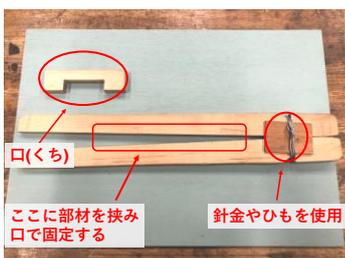
調査の結果、生産者は①多品種大量生産②作家作品③漆器産地の 3 つのグループに分けられることが分かった（下図参照）。



実際に 14 の生産者の工房へ訪問し、調査した。その中でも伝統的な道具や技法で製作している早川曲物に対して他の生産者(特に 6 社)がどのような道具や技法を採用しているかを比較。その結果を「曲物ミーティング」と題した技術交流会を開催し、評価いただくこととした。

3. 実践① —調査—

様々な道具や技法について調査を行ってきたが、文字数の関係上、本要旨には木バサミと側板・底板の組み立て方法についての調査結果のみを記述する。



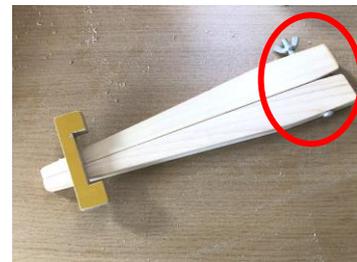
○木バサミとは
お湯などで熱を加え、曲げた木を丸くとどめておくために部材となる板を挟み、口で留める道具である(左図)。

早川曲物(岐阜県中津川市)の木バサミ

早川曲物は現在 3 代目で、妻と母親の 3 人で営んでいる。主に柄杓やせいろなどの消耗品を大量に生産。その種類は 200 にも及び、製作するスピードが速いのが特徴。先代である父親からその技術を継承しており、伝統的な道具や技法を使った多品種大量生産グループといえる。木バサミの特徴としては 3 つのグループの中でサイズが一番大きく、部材を挟むことのできる範囲を広くとれる為、小さな柄杓から大きなせいろをひとつの木バサミで製作出来る。

花野屋(長野県塩尻市)の木バサミ

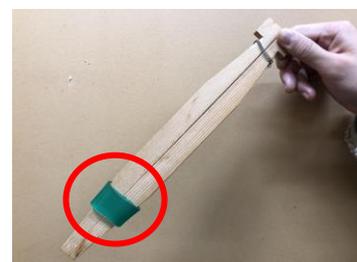
それに対して漆器産地グループは少品種大量生産が特徴で、花野屋の場合はパート従業員を数名採用している。伝統的な木バサミでは技術がないと均等な圧力で部材を挟むことが難しい作りとなっており、扱い辛い。そこで、その問題を解消したのが下図の木バサミで、印の部分をもルトにすることで、部材を挟む際の圧力の微調整を可能にし、誰が扱っても正確な製品が出来るように改良されている。



することで、部材を挟む際の圧力の微調整を可能にし、誰が扱っても正確な製品が出来るように改良されている。

じほうどう工房(滋賀県日野町)の木バサミ

少品種少量生産である作家作品グループのじほうどう工房の木バサミは下図のように伝統的に木を使用する口の部分にホース(ゴム素材)を使用している。これは、身の回りの物を有効活用し、部品を作る手間を省いた方法である。曲物に関しては修業して教わったわけではなく、ほぼ独学であるとのこと、曲物業界以外の新しい発想がもたらした道具である。



これは、身の回りの物を有効活用し、部品を作る手間を省いた方法である。曲物に関しては修業して教わったわけ

ではなく、ほぼ独学であるとのこと、曲物業界以外の新しい発想がもたらした道具である。

以上のように、同じ曲物製作でありながらグループごとにより道具や技法の違いがみられた。

○側板と底板の組み立て方法

曲物の構造は大きく側板と底板があり、そのふたつを組み立てることで容器としての機能を持つ。

早川曲物(岐阜県中津川市)の組み立て方法

伝統的な組み立て方法としてはまず、側板を完成させてから、そのサイズに合わせて底板をひとつひとつ成形、現物合わせで組み立てを行う。

栗久(秋田県大館市)の組み立て方法

早川曲物と同じ多品種大量生産グループである栗久の技法は、側板の方を底板に合わせて、同時に組み立てていくものである。こうすることで、底板をひとつひとつ成形するという手間のかかる作業を省いた、従来ではなかった新しい技法である。効率的に製作するという目的に対して早川曲物のように技術を鍛えるのか、栗久のようにアイディアで勝負するのかが違いが出ている。

以上のように同じグループの中でも考え方の違いにより道具や技法に差が出来ている。

4. 実践② ー技術交流ー

曲げ物ミーティング概要

日時	: 2020年1月25日(土)26日(日)
場所	: 岐阜県立森林文化アカデミー
実施内容	: 調査内容の報告 : 道具や技法について協議 : 産地の見学…小坂屋漆器店
参加者	: 早川曲物 (岐阜県中津川市) : 木地屋 西為 (岐阜県高山市) : 小坂屋漆器店 (長野県塩尻市) : 近藤奈央 (徳島県神山町) : 博多曲物玉樹 (福岡県志免町) : 栗久 (秋田県大館市)

※栗久は道具と作品の展示のみ

○道具や技法について協議

協議では、じほうどう工房の木バサミについて多くの意見があがった。

伝統的な道具の場合、左図のように修理品にも使用



することが出来るように設計されている。これがホースであった場合、図のような使い方ができない。伝統的な道具や技法は先人たちの知恵の詰まった理にかなった道具であるということを改めて認識する機会となったことに加え、自身では調べきれなかった新しい発見をすることが出来た。

しかし、新しい道具や技法を否定するばかりではなく、前述した栗久の底板と側板の同時組み立てについては採用したいなどの声が複数上がった。

上記のように、様々な新しい方法に対して各生産者がそれぞれの立場で協議しあう場を提供できたということは非常に価値のあるものだと感じた。

○技術交流会が横のつながりを作る

福岡県にある博多曲物玉樹さんには後継ぎ予定の息子がおり、どこに修業をさせようか考えていた最中、技術交流会に参加。旧知の間柄である栗久の道具や技法をいくつか聞いたことで、栗久へ修業に行かせたいという気持ちを固めた。この会を通じてつながる輪が出来たのは技術交流会の意義を感じた場面であった。

以上から、現在では生産者が少なく、各地域に点在している為、中々技術交流がされてこなかったが、生産者が多くいた時代に自然と行われてきた技術交流をこのような企画を実施することで、再現できたと感じ、大きな成果を得られたのではないかと考える。

5. 評価

参加者からは以下の意見を頂いた

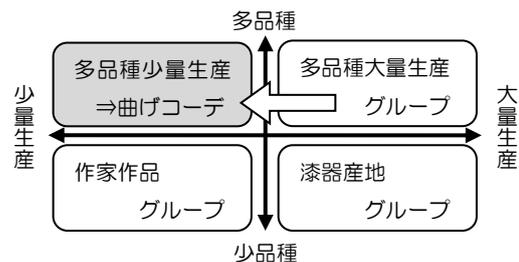
- ・プロがプロを評価する技術交流会は業界初なのではないか(早川曲物)
- ・この交流会で得られたことは今後の曲物人生の中で貴重なものとなった(博多曲物玉樹)
- ・来年も開催してほしい(近藤奈央)

以上のように前向きな意見が多く、一定の評価を頂けた。

6. まとめ

各生産者が採用する道具や技法はそれぞれの目的や環境、考え方により異なるものであると感じ、自身の目的を明確にする必要があると考える。

今後、私は東濃ひのきや木曾ひのきなどの地元の材を使って大量生産を目指していきたい。経験を積んだ後は、「曲げコーデ(コーディネート)」と題したセミオーダーシステムを導入することを検討している。



つまり、創業当初は早川曲物の道具や技法をベースに実務経験を積み、将来的には多品種少量生産を目標とし、既存グループとは違う戦略をとることで同業他社との差別化を図る方針である為、それぞれの領域で適した道具や技法に柔軟に対応していきたい。

そして今回、全国各地のプロの意見を聞いたことは、1人の職人に教わる元来の子弟制度では叶わなかった貴重な経験が出来たと感じている。

この研究成果を活かしながら、実践経験を積み、立派な生産者になっていきたい。